

# 富医ニュース

No.567 平成31年2月1日

一般社団法人 富田林医師会

会長 宮田 重 樹

〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38

TEL.(0721)29-1210 FAX.(0721)28-0858

E-mail: mail@tondabayashiishikai.jp

## 調 整 日

1月分 2月7日(木)  
PM3:00まで

2月分 3月7日(木)  
PM3:00まで

## 2 月 の 予 定

- 7日(木)・調整日
- 8日(金)・理事会
- 12日(火)・学校医部会
- 18日(月)・訪問看護ステーション  
運営委員会
- 21日(木)・学術講演会
- 22日(金)・広報調査委員会
- 25日(月)・広報調査委員会  
(校正)
- 26日(火)・休日診療委員会

## 平成31年 新年会

平成31年1月26日(土)コンラッド大阪で富田林医師会新年会が開かれました。当日の参加者は45名でした。

午後6時から藤岡洋副会長の司会で始まり、宮田会長から新年の挨拶と、医師会に参加する事の重要性と地域医療への取り組みについてのお話がありました。続いて、富田林病院院長の宮崎俊一先生から、富田林病院の建て替え工事の近況と今後の富田林病院と医師会、PL病院との連携によるさらなる地域医療への貢献についてのお話の後、乾杯の発声で宴会開始となりました。宴会の途中で救急災害委員会の赤松副会長から、災害時等に医師であることが証明できる医師資格証についての説明があり、現在無料で発行できるので、希望される方は医師会までお問い合わせをとの事でした。その後、司会の藤岡副会長の進行で各会員の先生方の近況や今年の抱負などを語っていただきました。また、今回初参加となった結のぞみ病院の利森幸子理事長と眞木修一病院長からは今後の病院の新しい診療体制(認知症対策、メンタルヘルス対策等)についてのお話もありました。富田林病院、PL病院の先生方もご参加いただき、各先生同士の会話もはずみ、楽しい情報交換の場となりました。最後に児嶋副会長の挨拶で締めくくり、盛会のうちにお開きとなりました。来年もご多忙な事とは思われますが多くの会員の先生方が参加され新年会がさらに盛会になることを願っております。



## 平成31年 1月定例理事会

日 時 平成31年1月11日(金)

13:30より

場 所 医師会 特別会議室

### 会長挨拶

### 報告事項

- 1) 日医かかりつけ医機能研修制度について
- 2) 妊婦加算取扱い 一旦停止となった
- 3) 医師による死因確定、変更報告の取扱いについて
- 4) ブルーカード推進について(救急災害委員会)
- 5) 新年会 コンラッドホテルにて

### 協議事項

- 1) 入退会の件
- 2) 河南町健康増進計画策定委員会委員の選任  
新田理事、仲谷理事
- 3) 平成30年度南河内がん医療ネットワーク協議会開催について 前田理事出席
- 4) 松原医師会からの提案の件
- 5) 医師会入口ドア交換の件
- 6) クレーム対策個別事案について、問題点については保険指導委員会から対象医師に対してコメントすることとなった
- 7) 理事のメーリングリスト作成希望について

## 年末年始休日診療所受診者数

今回は年末からインフルエンザが流行していたようで、出務された先生方お疲れさまでした。

年	30			31			合計
	12			1			
月							
日	29	30	31	1	2	3	
内科	43	96	130	125	159	134	687
小児科	25	89	93	78	93	79	457

## 富田林医師会学術講演会

日時 平成31年2月21日(木) 14:00~15:00

場所 医師会 研修室

### 【特別講演】

座長 富田林病院 消化器内科

部長 小牧 孝充 先生

『便秘治療の新展開 ~新規治療薬の臨床的意義~』

南大阪病院 副院長・消化器内科部長

福田 隆 先生

現在慢性便秘症治療において広く用いられている刺激性下剤はその即効性・有用性の反面、長期連用による耐性や難治性便秘の誘発などの問題点が指摘されている。また酸化マグネシウム製剤も高齢者・腎機能低下患者における高Mg血症の危険性があり、昨年刊行された慢性便秘症診療ガイドラインではこれらの薬剤使用に対する警鐘が鳴らされている。そのような状況の中で2012年ルビプロストンの登場が与えたインパクトは大きく、それに続くリナクロチド、エロピキシバット等の新規治療薬は我が国の慢性便秘症治療に新時代をもたらしたと言える。本講演においてはこれら新規治療薬のそれぞれの機序と臨床的役割、使用法の工夫等に関して解説していきたい。

※尚、当講演会は大阪府医師会生涯研修システム登録講演会となっております。生涯教育チケットをご持参いただくよう、お願い致します。

取得単位は1単位(カリキュラムコード:54便秘)です。

## 富田林医師会学術講演会

日時 平成31年3月26日(火) 14:00~15:30

場所 医師会 大会議室

『確実に間違いなく予防接種を行うために』

講師 ふじおか小児科 藤岡 雅司 先生

本講演は、大阪府医師会生涯研修システム登録しておりますので、生涯教育チケットをご持参下さい。生涯教育制度「1.5単位、取得カリキュラム「3」・「9」・「11」を申請中です。また、大阪府医師会指定学校医認定研修の申請もしております。

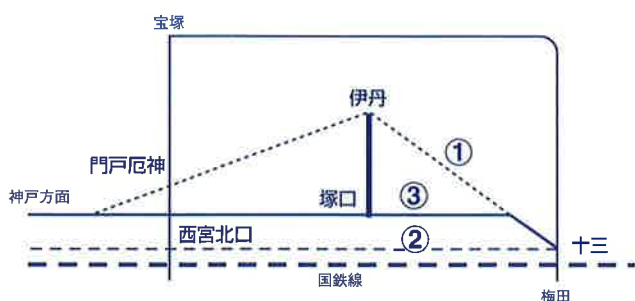


## \* 鉄道トリビア ～阪急神戸線その2～

わずか30分で阪神間を結ぶ速さとお洒落さを兼ね備える阪急神戸線。第1回ではお洒落なイメージを持つに至る経緯をお話しました。第2回はその速さの源である路線選定にまつわる話の中から、伊丹線についてのお話を。

伊丹線は神戸線の支線のひとつで、塚口駅から伊丹駅を結ぶ全長3.1kmの短い路線ですが、本線である神戸線と同時に開業しています。これには訳があります。阪急の始祖である箕面有馬電気軌道(現在の宝塚線)は、都心と温泉地をつなぐ目的で誕生しました。しかし鉄道経営を安定化させるためには都市間連絡路線を持ちたいとの意向から、神戸線建設の計画が持ち上がります。当時、現在の門戸厄神あたりから神戸までの鉄道敷設免許を持っていた灘循環電気軌道との接続提携を前提として、箕面有馬軌道は十三から伊丹を通り、門戸厄神へ至る路線の免許を取得します。その後灘循環軌道が経営難に陥り、箕面有馬軌道はこれを買収。十三から神戸までの路線免許を得たことを機に、社名を阪神急行電鉄に改めます。ここに「阪急」の名前が誕生することになります。

神戸までの路線免許を得たものの、伊丹、門戸厄神を経由するのでは大回りとなる(図中①)ため、阪急は



路線を国鉄沿いに変更する(図中②)申請を行おうとします。しかしこれを聞きつけた伊丹の住民が大々的な反対運動を起こします。鉄道が通るかどうかは町の利便性や発展性に大きく影響するためです。話し合いの末、両者の間をとって路線は塚口を通る(図中③)ことになり、塚口から伊丹までの支線を当初から敷設することで決着をみたのです。

戦前には尼崎から宝塚まで、阪神電鉄が伊丹線の横を通る路線を建設しようとしたのに対抗し、尼崎から塚口と、伊丹から宝塚までの路線延長計画が持ち上がったこともありました。しかし阪神の計画は尼崎市から

つけられた、市内を高架線で建設するようにという建設条件をクリアすることができず、バス専用道路として開通したため、阪急伊丹線の延伸計画はお蔵入りとなっています。阪神のバス専用道路による運行は日本初でしたが、戦時中の統合により国に没収され、現在は兵庫県道42号線となっています。阪神バスが現在もこの県道を通して尼崎から宝塚に至る路線をもっているのはその名残です。

現在、伊丹線は梅田への直通列車はないものの10分間隔で運行され、JRよりも街の中心地を通るために伊丹駅の一日乗降客数は22,000人をこえており、阪急のなかでは重要な路線となっています。何の変哲もない小さな支線にも歴史があります。そこが面白いと思ったあなたは、マニアの仲間入りかも。

次回は神戸線を西へ進み、西宮北口駅の歴史と、もう一つの支線である甲陽線にスポットを当てたいと思います。(zenkun)

## 編集者の独り言

私はここ富田林市で仕事を始めたのが平成5年で、富田林病院産婦人科のトップとして赴任しました。いろいろな事情があり富田林病院産科を閉じることになりましたが、それを契機に平成18年3月よりこの地に開業し、地域医療に根差した仕事をしていこうとの気持ちで、現在まで1日も休業することなく仕事をしてきました。なんとか風邪をひいても重症化せず、外来を休まず仕事してきましたが、今年の成人の日の翌日の午前診から、発熱による悪寒、流れ落ちる鼻水、1度出だすと止まらない連続した咳とで体のだるさが堪らなく、午前診が終わっても食欲はなく体が睡眠を要求して寝入ってしまいました。午後診が始まっても同様の症状が治まらずしんどいながらも外来をこなしていきましたが、その日は食事もとれず、ただ睡眠をとりたいという身体の欲求に従いました。念のためインフルエンザ検査薬をしましたが結果は陰性で、最低限の電解質・水分補給だけはしておきました。しかしながら、もしインフルエンザ感染だったらと思い、一応薬は服用しておきました。次の日は、朝から体熱感はいったかと思い安心して外来を始めましたが、鼻水・咳は徐々にぶり返し、午前診が終わるころは、また体がグロッキーの状態でお昼休憩は睡眠による体調回復が必要と思い休みました。夜診の間も同じ症状が続き、その日

## 1 月 行 事 ・ 会 合

も何とかやっとの思いで診察を終えることができた、という状況でした。次の日からはそれまでの高熱は喉の痛みに変わり、咳は続くものの、少しずつ体力も回復してきました。新年早々、ひどい風邪に見舞われ、初めて一人診療の限界を痛感いたしました。健康で元気に生活することがいかに大切かを、開業13年目にして、改めて思い知らされた気がします。後から広報作成時に知ったのですが、年末年始の休日診療所の受診者数を確認してみると、12月30日から1月3日の患者さんの数が96人から159人と多く、その内訳はほとんどインフルエンザ患者であったこと、1月13日に150人、1月14日に121人でこの時もほとんどインフルエンザの患者さんであったことを聞き、出務していただいた先生方にお疲れさんの気持ちいっぱいです。これからも厳しい寒さが続きますが、患者さんからの感染にも気を付けて、万全の体調で日常診療に励んでいただきたいと思います。

新年会にて今回の私の状況を話させていただきましたところ、ある先生から三日目にしてようやくインフルエンザ陽性になった患者さんがいたとのお話があり、ひよっとすると僕もインフルエンザだったのかなと思いました。(ワクチンを打ったはずなのですが。。。)

広報の編集を長年携わらせていただいておりますが、どうしても寄稿の量によって編集者も苦慮しておりますので、会員各位からの積極的な寄稿をお願いしたく宜しくお願いいたします。

### 医師資格証の見本

緊急時の身分証、JAL DOCTOR登録制度講習会受付、研修会受講履歴単位管理等に利用できます。



- 7日(月)・仕事始め
- 8日(火)・休日診療委員会  
・調整日
- 9日(水)・救急災害医療委員会
- 11日(金)・理事会
- 15日(火)・学校医部会
- 21日(月)・訪問看護ステーション運営委員会
- 22日(火)・感染症対策委員会
- 24日(木)・学術講演会
- 25日(金)・広報調査委員会
- 26日(土)・新年会(コンラッド大阪 18時～)
- 28日(月)・広報調査委員会(校正)
- 29日(火)・休日診療委員会

- 会員数(2月1日現在) 188名  
A会員 97名 B会員 91名
- 入会 1月15日  
泉本 高之 A2B(結のぞみ病院 精神科 診療内科)  
1月24日  
阪尾 淳 B(富田林病院 外科 乳腺外科)
- 退会 12月25日  
廣谷 幸一 A2B(自宅会員)死亡退会  
1月16日  
平田 正昭 A2B(自宅会員)
- 異動 なし

### 広 報 調 査 委 員 会

委員長	齊 藤 謙 介	副委員長	森 井 秀 樹	
委員	青山 賢治	天城 完二	植村 匡志	
	江村 俊也	奥野 敦史	尾多賀雅哉	
	遠山 佳樹	中村 元	藤岡 洋	
	山本 善哉	山村 友良		